

e-mail hotnet@sea.plala.or.jp  
配布地域：喜多方市（旧喜多方・塩川・山都・熱塩加納）

2015年（平成27年）  
4月19日（日）  
第241号

人と人とを結ぶ情報紙

# ほっとねっと

ほっとねっと社 〒966-0096 福島県喜多方市宇押切南2丁目20 TEL (0241) 22-2828 FAX (0241) 25-7699

編集と印刷／おもはん社 TEL (0241) 22-2828

喜多方市の人口は平成の大合併後五年間で二万人が減少した。その結果市内の空き家がなんと二千戸を越えているというから驚くほかにない。その数は人口減少に反比例して今後増える傾向にあるという。

こうしたなかで懸念されている一つに、土蔵の管理者不在がある。

市内には土蔵が四千四百棟もあるが、崩落・崩壊にまかせる状態にある土蔵も少なくない。塩川町にある（株）光進都市コンサルタントの代表取締役飯塚幸作さんは、あるとき、自宅（能力）にある二棟の蔵をネズミの占拠にまかせ不要の施設としてに気がとがめられた。先祖の建てた蔵を自分の代でつぶすわけにはいかないと一念発起、地域コミニティ

## 日曜随想

くらぶ蔵部  
仙次



センターとして活用する計画をたてた。改修工事にかかると天井の梁に「明治三十二年二月廿二日 棟梁 越後国西蒲原郡石瀬村 岸波仙次 作」の記名があった。さらに不思議な歌の文句が達筆で書かれていた。  
志かはしら 氷のけたに 雪のぬき 雨のたるきに 霜の葺草

意味は不明だが、今も建前の際に唄う慣習が残っている、ほの聞いた。

工事は3月末に終了、土蔵は棟梁に敬意を表して「村の駅どうじま・岸波仙次蔵部（倶楽部）」と名づけられ、20畳の映画館蔵、40畳の体育館蔵に生まれかわった。4月11日にお披露目の映画上映が行われた。両蔵とも予約して誰でも利用できる。連絡

080-2840-5640